



2月 ちとせだより

2024. 2. 1

幼保連携型認定こども園
神戸YMCAちとせ幼稚園

1月末には大きな寒波がやってきて、風が冷たく痛く感じる日がありました。そのような日は、暖房が効いた暖かい部屋から1歩も出たくないと思うのは、大人だけなのでしょうか？そんな日であっても園庭では元気に走り回る子どもたちがいました。本当に寒くないのだろうか？と少し心配になる私たちの思いをよそに笑顔で様々な遊びに夢中になる子どもたちを見て、「子どもは風の子」という言葉は、本当にその通りだなと思いました。

また自力で登園する様子を見ると、保護者も寒くないだろうか？と心配する気持ちからか、体操服の上にダウンコートを着て、手袋、耳当て、帽子など完全装備でやってくるのですが、幼稚園のルールでそれらの防寒具は園に来れば脱いで、お部屋に向かいます。そしてその軽装（体操服）で、子どもたちは園庭に出て走り回っているのです。

私たちは時に、子どもたちのことを「まだ小さいから」、「まだ何もわかっていないから」などと、様々な場面で困らないようにあれこれ手を出したり、良かれと思って援助することが多くあると思います。もちろん援助をもらった子どもたちは、それが当たり前と感じ、拒むことはきつくないでしょう。以前、園庭で走り回っていて「暑くてしんどい！」と職員室にやってきた子どもが、体操服の下に何枚もの服を着ていたことがありました。寒いだろうと思って着せてあげた援助が時に仇となることもあるのです。

しかし、すべての子どもたちが同じ訳ではありませんので、どの子も寒さに強いと決めつけはできません。大切なのは、それぞれにあった適切で過ごしやすい環境を自分の力で作っていくことだと思います。寒いから暖かい部屋で過ごす。暑いから着ている服を脱ぐ。それらの行為を自分自身の感覚で、行動に移していけることが大切です。私たち大人の援助は、きっとその過程で必要になってくるのではないのでしょうか。「暑いから服を脱ぎたいけど脱げないから手伝って・・・」言葉で見るとごく当たり前のことですが、ここには、「自分で暑いと感じる」→「暑いから脱ぎたい」→「脱ぐことを手伝って欲しいと訴える」と子どもたちの主体的な思いがたくさん含まれています。そういった言葉にしっかり耳を傾け、共感し、援助してあげることが、私たち大人の本当の役割なのではないのでしょうか。

この季節にあって、近隣の小学校ではインフルエンザや感染症による学級閉鎖が増加していると聞いております。しかし、幼稚園では今のところ感染症等は大きく広がることなく、子どもたちの健康が守られております。保護者の皆様のご協力に感謝すると共に、幼稚園の保育で寒い中でも遊びを通して、戸外で走り回り、強い身体を維持できるよう見守っていきたいと思います。

【年主題】

『ともにつむぎだす』～希望の中で～

【年主題聖句】

キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、
また、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられました。
(エフェソ信徒への手紙2章17節)

2月主題 「なかまと心あわせて」

聖句 「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」
(ローマ信徒への手紙12章15節)